

敷島中学校学校通信



敬愛

令和3年6月11日

文責 輿石 信

第4号



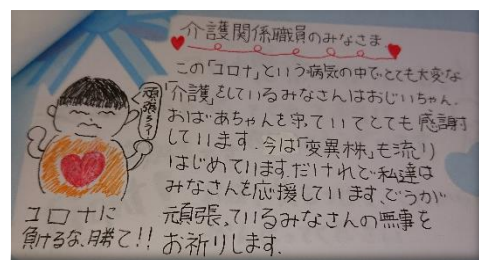
「敷島中ホームページ」へ

コロナ禍で頑張る人たちへ、感謝とエールを。

～生徒たちがエッセンシャルワーカーへ感謝の気持ちを手紙にして届けました～

梅雨入りも間近と思われた関東地方ですが、ここのところ気温も上昇し、週末までは梅雨入りはなさそうです。校長室から見える校庭では1年生が体育の授業で陸上に取り組んでいます。暑さのせいもあり、半袖・ハーフパンツで授業に参加する生徒が日に日に多くなっていますが、授業の始め・中間・終わりには、日陰に入って給水を取るなど熱中症に気をつけながら授業が進められています。4・5月は授業始めの準備体操は教師の指示・号令で行っていましたが、6月は生徒の代表が前に出て自分たちで行っています。そんなちょっとした変化に子供たちの成長を感じます。

最近、うれしい出来事がありました。各学年とも、家庭科の「家庭を支える社会」という授業で、コロナ禍で感染リスクと向き合いながら働くエッセンシャルワーカーの人たちについて学習しました。そのまとめとして、各自が職業を選んで、そこに従事する人に対し手紙を書きました。市役所職員、警察、救急救命士といった公務員、医師や看護師、検査技師などの医療従事者、美容院、飲食店、スーパー、コンビニなどの接客業、介護施設やデイサービス等の福祉関係者など多岐にわたるものでした。どの手紙も生徒自身の言葉で素直な気持ちが綴られていました。後日、担当教員が手紙を届けに行ったところ、いくつもの事業所から、「中学生の言葉に勇気づけられた」、「辛いことが多い最近だったけど、元気が出てきた」、「これでまた頑張れる」などの感謝の声をいただいたとのことでした。学校宛に手紙を送ってきてくれた事業所も複数ありました。(左は、その文面です)



敷島中学校の生徒のみなさまへ

この度は、みなさまからの熱いメッセージを読ませてい

ただき、胸が熱くなりました。

今、コロナで、色々なことが思うようにできない状況では

ありますが、皆様は、今やれることを工夫して精一杯頑張

っておられると思います。この状況がいつまでも続くことは

ないと思います。必ず、明るい未来があるはずです。

どうか皆さん、希望をもって学校生活をお送りください。

メッセージありがとうございました!!

〇〇事業所

今回の学習が“自分の当たり前の毎日は様々な人の支えによって成り立っている”ことを学ぶ機会となったとともに、手紙を送った先から感謝の言葉やエールを返してもらったことで、“思いは通じること”や、“自分の言葉や存在が人に勇気や希望を与えること”等、人や社会とのつながりを実感できたことは貴重な経験となったと思います。

コロナ禍で人との直接的な交流が制限されている現在ですが、その一方で、中学生年代は多くの大人と関わることで物の見方や考え方が広がり、心の成長を遂げる大事な時期でもあります。

今後も、社会とのつながりが実感できる授業や教育活動の実施に知恵を絞っていけたらと思っています。